

CAMPUS NET

特集
創ろう！看護のミライ



創ろう！看護のミライ

研究のスタートの多くが、臨床現場での疑問から始まります。石川県立看護大学大学院では、様々な研究手法によって、臨床現場で生じる疑問を解明し、解決策の開発や提案を行っています。今回は、「看護のミライ」を創り出す研究室・グループの研究活動の一部を紹介します。

創ろう！看護の未来 学長 真田 弘美

皆さん、看護の未来を考えたことがありますか。

もちろん日々の仕事に追われることで、難しい場合もあるでしょう。

しかし、看護の未来は、急速に進化し続ける医療技術や人口の高齢化など、様々な要因によって大きく変化することが予想されます。この変化に対応するために、看護は新しいスキルや知識を習得する必要があります。

一方で、人間性を重視した看護が求められる時代にもなっています。看護職は、テクニカルなスキルや診療の補助行為だけでなく、患者の感情や思いに寄り添うことが求められます。また、患者の生活環境や社会的な問題にも配慮し、ホリスティックな看護を提供することが求められます。

一方では、テクノロジーの進化によ

て、看護の仕事の多くが自動化される可能性があります。しかし、患者との対話や感情的なサポートなど、その人らしい生き方を支援する方法は自動化できないため、看護がますます重要な存在となるでしょう。

また、グローバル化が進む現代においては、異文化や外国語に精通した看護職が求められることも増えています。多文化共生社会の実現に向け、看護職員たちは多様性を理解し、適切なケアを提供するための能力を持つことが必要です。

このように、看護の未来はさまざまな要因によって大きく変化することが予想されます。看護職は、時代の変化に柔軟に対応し、DXなどの常に新しいスキルや知識を習得し続けることが求められます。同時に、人間的な関係を重視



した看護を提供し、多様性すなわちダイバーシティに対応したケアを提供することが求められるでしょう。看護の未来は医療のキーパーソンとして、とても魅力的な職業となると確信しています。

精神看護学分野

美濃研究室

精神科看護師の実践能力向上と 精神科看護の質向上に向けた包括的アプローチ

当研究室では司法精神看護、精神科身体合併症看護、発達障害患者とその家族の看護、アディクション看護、感情活用理論を用いた精神科看護師のメンタルヘルス、継続学習としてのグループスーパービジョンの方法論に関する研究等、精神科看護師の実践能力向上と精神科看護の質向上に向けた幅広いテーマを取り扱っています。研究室ゼミでは、学部生や大学院生のリサーチクエストを大切に、どのような方法と研究プロセスを踏むことでその事柄が明らかになるのかを、グループの中で学びながら、集団としての成長を目指します。ゼミでは、「自分がいま何を感じ、何を思い、考えたか」を自覚し、表現することから対話を始めていきます。まずは、自分の気持ちに正直になって、今、その時、その瞬間の感情を自覚することができる、そんな精神看護の専門家になりたい学生さんを望みます。



不確実性の時代に求められる
看護管理者の組織開発・人材育成を探る

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行、超高齢・人口減少社会など、予期せぬ変化や新たな課題は時代ごとに存在します。この不確実な事象を受け止め、時代に即して組織のあり方を変え、成長のチャンスにしていく必要があります。私の研究室では、未来の予測が困難な現代におけるリーダーの在り方、人材育成、そして組織開発について探究しています。私自身は、超高齢・人口減少時代に、住み慣れた家で生き残るための移行支援・システムを開発しています。在宅移行期では、患者・家族は自らの責任のもとで新たな療養生活を築きます。この在宅療養生活を継続するためには当事者である患者・家族自らが症状マネジメント力を高める必要があります。そこで、患者の病態と生活から包括的に症状マネジメントできる診療看護師(NP)が患者・家族の療養生活で得た自助力を活かし、患者・家族の症状マネジメント力を高める教育支援モデルの開発を試みています。

可視化するアセスメント技術と遠隔ケア支援で、
どこでも最適ケアの実現へ

当グループメンバーは、非侵襲的に見えないものを可視化して、高度なアセスメントができる技術を開発しています。例えば、エコーを用いて褥瘡やリンパ浮腫の状態をアセスメントする指標や、膀胱や直腸内の状態を自動で評価できる人工知能アシスト機能搭載のエコー機器の開発を行っています。さらに、皮膚にシートを貼付するだけで、皮膚内部の状態やバリア機能などを評価できるスキンプロットング法の開発も行っています。また、これらの技術を看護師であれば病院だけでなく、施設でも行えるように遠隔ケア支援の研究も行っており「これがあれば相談もでき、自信をもってケアができる」という声もいただいています。

なお、バイオロジーや、デジタルトランスフォーメーションなど多分野で活躍する教員で構成されているため、実験室や臨床といった多様な場で、多様な研究手法を用いて研究を行えることが当グループの強みです。



エコー走査を遠隔で指導している場面

見る知る、探る。

石川県立看護大学
公式YouTubeチャンネル

大学紹介や学生生活、公開講義など、石川県立看護大学の学びの特徴や魅力を発信しています。

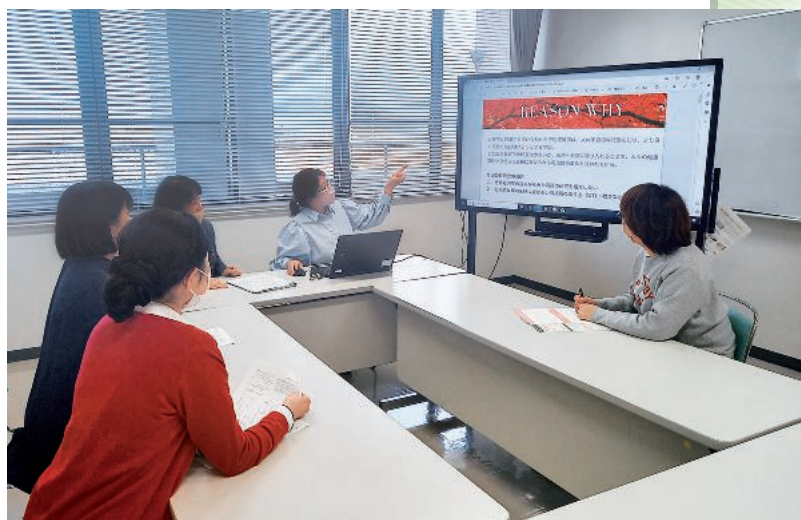


当グループでは、地域で生活する人を対象とした量的研究をしています。

主観的データや客観的データの両方から、研究目的を明らかにしていきます。調査（測定など）は、ゼミのメンバーが協力して実施しています。そうすることで、学びも楽しさも2倍になります。私自身は、家族支援に着目し、測定機器などを用いて現象を明らかにしていくことに楽しさを感じています。

これまでの院生は、パーキンソン病高齢者のフレイル予防に着目した研究や医療的ケアが必要な児の育児支援について取り組んでいます。各々が関心のあるテーマをもってゼミに参加し、ディスカッションしながら研究計画をブラッシュアップしていきます。みんなとディスカッションすると、“ハッとするあたらしい気づきがある”こともあります。

原則、毎月第2水曜日にオープン形式で抄読会を開催しています。在宅看護学分野以外の方も大歓迎です。



大学院生の研究指導では院生の興味関心を尊重しています。助産看護学では妊産婦救急搬送時のケアに関する研究、性教育に関する研究、乳房ケアの困難さと身につけ方に関する研究、コロナ禍での妊婦の対処経験に対する研究、夫婦で共同育児（コペアレンティング）を促すための研究、出生前診断の意思決定に関する研究、女性看護学では、産後のメンタルヘルスに関する研究等思春期からマタニティサイクルを中心に女性の生涯の健康に対する支援に関して幅広く取り組んでいます。私自身は継続して周産期のグリーフケア（流産・死産等で赤ちゃんを亡くされた方への支援）に関する研究に取り組んでおり、今年度の女性看護学の院生はグリーフケアに関わる看護者の支援に関する研究に取り組む予定です。助産看護学の院生は助産師資格取得のための超過密なカリキュラムの中、入学時より卒業研究を進展させたり、新たなテーマを模索したりと様々な授業の中研究テーマを意識しつつ、取り組んでいます。



「看護のミライ」を創っていくには、一般住民や患者さん、看護師をはじめとする医療従事者や行政など多くの人たちの協力が必要です。そして「看護のミライ」とは何かと問えば、世界の人々がその人らしく生きられるミライを創ることになると思います。様々な機器やソフトウェアの開発が進んでおり社会は大きく変わろうとしています。看護においても、その人らしく生きられるために寄り添うという基本は忘れずに、発展していく機器やスキル、社会情勢を取り入れることが必要となっています。

ここで紹介されている「看護のミライ」につながる研究には、日々の業務で感じる違和感を具体化し、問題点を見つけ、そして答えを一般化するという研究の基本が背景にあります。研究は決して難しいことをしているのではなく、小さな疑問の芽生えを大切に「看護のミライ」に貢献することにあります。看護の世界からその人らしく生きられる社会を創ること、石川県立看護大学から素敵な「看護のミライ」が創られることを信じています。



教授 米澤 洋美
Hiromi Yonezawa

公衆衛生看護学

● PROFILE

福井県出身。東京大学医学部保健学科卒業、東京医科歯科大学修士課程、石川県立看護大学博士課程修了。虎の門病院(看護師)、横浜市役所(保健師)にて勤務後、国立保健医療科学院(研究官)、福井大学(教員)を経て2022年10月より現職。

団塊世代男性の定年退職後の健康づくり

団塊(だんかい)世代と呼ばれる現在75歳前後の男性高齢者の健康づくりが研究テーマです。団塊世代とは、1947年～1949年に生まれた約810万人のことです。人口が多く、影響力の大きな団塊世代がなるべく介護を必要としないでイキイキと暮らせるためにはたらきかけを模索しています。保健師として働いていた頃、住民さんの健康づくりを担当してきました。当時、行政が主催する教室には男性高齢者の参加者は少なく、快活な女性高齢者ばかりでした。退職した男性はどこにおられるのかなと不思議に思い、退職前から団塊世代男性に定期的にお話を伺うと、定年退職後も働くことに興味をもっているらしいことがわかりました。中でも地方の農村村部では、シルバー人材センターという高齢者の団体が、地域のお困りごとの担い手となって、活躍していることもわかりました。そこでは男性が7割でした。日本は国際的にみても退職後の就労意欲が高いことで

有名です。退職後に働くことで生きがいをもって暮らせるなら、その場に介護予防の機能も付け加えられないかという試みをしています。日本らしい定年退職後の健康づくりの仕組みを提案したいです。

北國新聞に「禁酒村の碑」に関する記事を見つけ早速行ってきました。かつて村全体で禁酒をして捻出した費用で津幡町河合谷小学校が建て替えられたそうです。老朽化した校舎の改修費約45000円(現在では3000万円相当)を賄うため、当時の村長が禁酒を提唱し、禁酒の碑を建立とありました。村の子どものための教育のために大人たちが禁酒して新しい小学校をプレゼントするという話で胸が熱くなりました。



イチオシ!



講師 中嶋 優太
Yuta Nakajima

哲学、生命倫理学

● PROFILE

滋賀県彦根市出身。京都大学文学部卒業。京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学の後、京都大学、大阪教育大学等で非常勤講師。石川県西田幾多郎記念哲学館専門員を経て、2022年から現職。

自由とは何か－西田幾多郎の哲学を手がかりに考える

個人が自由に意志決定を行うことは現代社会の前提です。たとえば医療現場の倫理では、患者が自由に意志を決めるという前提の上で、その決定を尊重することが自律尊重原則と言われます。

ところで、そもそも、私たちは本当に自由に意志を決定しているのでしょうか。そこには、選択肢の少なさ、強制や妨害の存在という、時に現実の社会が抱える問題もあるでしょう。しかし、目の前にたくさんの選択肢があったとしても、だからこそ、選べないということもあります。単に強制されない選択肢があることと、自分がこれだと納得できる意志決定ができることは別のことです。

自由とは何か。私は、日本を代表する哲学者、西田幾多郎(1870-1945)の思想を手がかりにして考えています。彼は選択の自由は本当の自由ではないといい、「必然的自由」という独創的な自由論を展開しました。彼の哲学は

現代の常識からみると奇妙で逆説的に見える部分も多いですが、そのことが私たちに考えるきっかけを与えてくれます。西田の直筆資料を多く所蔵する石川県西田幾多郎記念哲学館と協力して翻刻を行い、新資料を用いて西田哲学の新しい側面に光を当てつつ、自由をめぐる現代的問題について考えたいと思っています。



サンキョウパンのシュークリーム。大きいので眺めるだけで楽しい気分になります。サンキョウパンは大学の購買にも入っていますがシュークリームは本店でしか見かけたことがありません。

イチオシ!



EVENT

卒業式・学位授与式
学部生79名が卒業、大学院19名が修了

令和4年度の卒業式・学位授与式を3月18日(土)に挙行了しました。学部生79名が卒業、大学院生19名(前期課程14名、後期課程5名)が修了しました。真田学長は、「変化を恐れず、変化に適応するだけでなく、変化を起こす看護のリーダーになってください。」と卒業生・修了生を激励しました。馳浩石川県知事からは、「皆さん一人ひとりが病院や施設などで支援を待っている方々にとって必要な人材です。今後も力強く歩んでほしい。」と期待の言葉をいただきました。卒業生を代表して浅谷純菜さん、修了生を代表して石井和美さんが、学生生活を支えてくれた友人や家族、教職員などに感謝を述べました。保護者・ご家族の方には、中継にてご覧いただきました。



卒業証書・学位記授与



馳知事挨拶



答辞



学長表彰を受けた皆さん

学部卒業生の言葉 下橋 和也さん

4年間の学部生生活を終えて

大学生活は周囲の多くの方々に支えられて乗り越えることができた4年間でした。新型コロナウイルスが蔓延したことで、講義や臨地実習に臨む際に行動制限や体調の管理が必要となり、大変に感じることもありました。しかし、自分の体調を整えることが患者さんの安心安全につながる第一歩である、と看護職者として働くうえでの責任感を実感することができました。そして、心身の健康を維持できたのは同じ志を共にする友人たちや家族の存在、大学の教職員や実習先の方々からのサポートがあったおかげだと思います。これからも本学で学んだ看護技術と人との関わりを大切にしながら頑張っていきたいです。



大学院修了生の言葉 阿川 啓子さん

博士後期課程で発見した新たな目標

私は、心臓病の在宅療養児を対象とした研究に取り組みました。本研究では、個別性が高いと考えられる病児を持つ母親の「育児の様相」を明らかにしました。私は本研究を通して、看護の普遍に加え、母親の価値観を取り入れたオリジナルな看護を創造し提供することの重要性に気づきました。そのような暮らしの中の看護実践のヒントを石川県立看護大学の博士後期課程で発見しました。現在の私は、個別性に対応した「根拠に基づいて創造する訪問看護」を臨床で実践することに胸を熱くしております。皆様、本当にありがとうございました。



EVENT

令和5年度入学式
学部生83名、大学院生18名が入学

4月4日(火)、令和5年度入学式が講堂にて挙行されました。学部生83名、大学院生18名が入学を許可されました。昨年度までは新型コロナ感染症対策のためオンライン中継による入学式でしたが、今年度は保護者の方も式に参列いただきました。真田学長は式辞の中で「自ら行動を起こし、友人や教員とディスカッションすることを学び、日々の大学生活を楽しんでください。」と新入生を激励しました。ご来賓の油野和一郎がほく市長からは「大学での勉学はもちろんのこと、地域に向向いて様々な分野で住民の方々と接して頂ければと思います。」とのお言葉をいただき、学生とかほく市民との交流に期待を示されました。



退職のごあいさつ 令和5年3月で本学を退職した教員からコメントをいただきました。



看護実践の中での多くの出会いに感謝

牧野 智恵 教授 成人・老年看護学講座

私は、これまでがん看護、慢性期看護、終末期看護の教育・研究を行ってきました。きっかけは、看護師時代や教員時代に出会った患者さんです。彼（彼女）らとの関わりの中で「看護とは何か」ということを深く考えさせられました。40年前は、ほとんどのがん患者は未告知で、そういった状況下での看護とは何か悩みました。それが生涯の研究のテーマになりました。今日まで看護教育者・研究者として従事してこられたのは、臨床実践の中で多くの人に出会えたからです。患者さんの価値観はひとり一人違います。目の前の患者さんに専心することで、本当に必要な看護が見えてきます。これからの若い人たちも、目の前に起こっている出来事に目を閉じず、常に既知への問いを行い、いい看護や研究を実践してほしいと思います。



思い出の1枚

がんプロで米国のがん看護を視察した際、子どもへの心へのケアがすばらしいことを知り感動しました。



他人の感情のただなかへ自己を投入する能力を！

川島 和代 教授 成人・老年看護学講座

在籍した22年の中で15年間は基礎看護学を担当し、7年間は老年看護学を担当させていただきました。基礎看護学では、ナイチンゲール看護論を基盤に、自分の中に「看護とは」のゆるがぬ指針をもち、自分ではない相手の痛みや苦しき、喜びなどの感情をわがこととして感じられる（立場変換能力）看護職者の土台作り力を注いでまいりました。また、老年看護学では老いを生きる人の理解を深め、その人が培ってきた力を尊重し引き出す看護の豊かさを共に創り出したいと努力してまいりました。

“自分自身はけっして感じたことのない他人の感情のただなかへ自己を投入する能力をこれほど必要とする仕事はほかに存在しないのである。”(F.N.看護覚え書、補章より) その感性と行動力を発信し続けられる大学づくりの途上でしたが、受け継いでくださる人が増えていくことを願ってやみません。



思い出の1枚

着任時、基礎看護技術を教授できるよう(学生に恥ずかしくないように)朝早くから基礎看護学実習室で練習に明け暮れた日々。看護理論と看護技術のつながりを、再度、確認できた貴重な時間であったと有難くまた、懐かしく思っています。

附属施設 INFORMATION

附属図書館

図書館司書のご紹介

今回は本年度に新規配属されました図書館司書をご紹介します。

図書館での皆さんのお手伝いをいたしますので遠慮なく声をかけてください。



山田 美花

出身：石川県羽咋郡
前任：石川県立図書館
仕事内容：新着図書や寄贈図書・雑誌などの登録とカウンターでの貸出・返却、図書館ガイダンスの業務を担当しています。
趣味：映画鑑賞、本や漫画を読むのが好きです。



古橋 和子

出身：富山県入善町
前任：いしかわ食マネジメント専門職大学
仕事内容：貸出・返却のほか、新しく購入した図書や雑誌の登録、県内外の大学、公共図書館への文献複写・相互貸借業務を担当しています。
趣味：観光を兼ねたライブ遠征とラジオを聴くこと。

地域ケア総合センター

地域公開講座の開催

— 少しずつ外出と対話の機会が増えました —

2022年度は、本学のDXが促進され、感染予防に配慮しながら、さまざまな方法で研修会等を開催することができました。その中のひとつに、寺井准教授の地域公開講座「認知症世界の歩き方ダイアログ」がありました。対話型のゲームを通して、参加者が認知症のある方ご本人の目線で、日常生活に起こる様々な困りごととその背景を知り、認知症についての理解を深めることを目的としています。雪の舞う日でしたが22名の方にご参加いただきました。開催中も映像が終わる前に立ち上がり、熱中されている姿が印象的でした。



看護キャリア支援センター

感染管理認定看護師教育課程・認定看護管理者教育課程修了式

2023年2月10日(金)、令和4年度「感染管理認定看護師教育課程」「認定看護管理者教育課程サードレベル」合同で修了式を行いました。コロナ禍の影響で、対面での式は3年ぶりでの開催でした。真田学長から修了証書が読み上げられ、期待を込めた激励の挨拶がありました。両教育課程共々力強い決意とお世話になった方々への感謝、仲間と共にここで学んだ事を糧に、明日からの実践を誓いました。



国家試験の合格状況 令和4年度看護師・保健師国家試験合格状況（第20期生の状況）

区分	卒業生	受験者数	合格者数	合格率	
				本学	全国(新卒のみ)
看護師	79名	79名	79名	100.0%	95.5%
保健師	79名	79名	78名	98.7%	96.8%

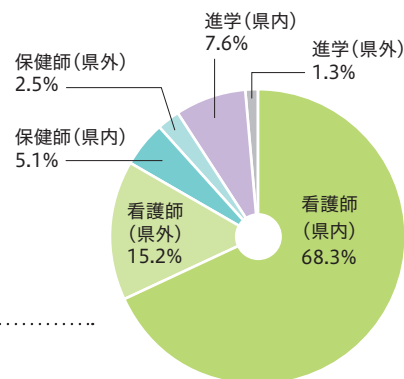
卒業生の進路状況 令和5年3月31日現在の就職・進学状況は次のとおりです。

〈県内就職内定・進学先〉

看護師 石川県立中央病院（11名）、金沢大学附属病院（22名）、金沢医科大学病院（2名）、JCHO金沢病院（5名）、金沢赤十字病院（1名）、金沢医療センター（4名）、公立宇出津総合病院（1名）、市立輪島病院（2名）、珠洲市総合病院（2名）、他（1名）

保健師 金沢市（2名）、珠洲市（1名）、津幡町（1名）

進学 石川県立看護大学大学院（3名）、金沢大学大学院（3名）



〈県外就職内定・進学先〉

看護師 名古屋徳洲会総合病院（1名）、トヨタ記念病院（1名）、東京慈恵会医科大学葛飾医療センター（1名）、東京医科歯科大学病院（1名）、板橋中央総合病院（1名）、淀川キリスト教病院（1名）、関西医科大学附属病院（1名）、神戸市民病院機構（1名）、他（1名）

保健師 富山県（1名）、成仁病院（東京都）（1名）

進学 昭和女子大学助産学専攻科（1名）

令和5年度 キャンパススケジュール 令和5年度キャンパススケジュールについては下記のとおりです。

前期	夏のオープンキャンパス	7月15日(土)	後期	大学祭(看大祭)	10月21日(土)
	補講・試験	8月1日(火)～8月10日(木)		冬期休業	12月22日(金)～1月4日(木)
	夏期休業	8月11日(金)～9月30日(土)		補講・試験	2月13日(火)～22日(木)
後期	授業開始	10月2日(月)		春期休業	2月22日(木)～
	秋のオープンキャンパス	10月14日(土)		卒業式・学位授与式	3月16日(土)



石川県立看護大学グローバルはまなす基金



開学から20年が過ぎた今日、社会や家族の変化、医療経済の危機に対応した医療の再編が間近いことが聞こえてまいります。本学では今後ますます時代や地域にあった看護師・保健師・助産師を輩出する努力を重ねる所存です。そこで、学生・大学院生の国内外研修を推進する事業や、教育・研究活動において地域社会に貢献する事業を推進することを目的に、「グローバルはまなす基金」を設立しました。趣旨にご賛同いただける方からのご寄附をお待ちしております。

お申込み・お問合せ先（石川県立看護大学総務課）076-281-8300

